高齢社会の福祉専門紙
シルバー新報
年間購読料22,050円（税込み）
発行所：東京都新宿区四谷3-1-3（第一富澤ビル）　電話（03）3359-5371
大阪市中央区北久宝寺町2-6-7　電話（06）6252-5895
株式会社　環境新聞社　© 環境新聞社2008
e-mail：info@silver-news.com　http：//www.silver-news.com

平成20年／2008年
3月7日（金曜日）

CONTENTS

ローカルルールに負けない — 5
介護保険担当課長会議開く — 2
介護保険料問題ありが9割 — 3
訪問看護で3団体が協同 — 4
新・だから職員が辞めていく — 6

自治体ごとの独自の解釈によるサービス制限。こうしたローカルルールを改善しようと、東京都介護支援専門員研究協議会ではケアマネが受けた指導事例を集める活動を始めている。事例で訴えた結果、報酬算定が認められるようになったなど成果も出始めている。

介護療養病床の8割を維持
新型老健の介護報酬を答申
社保審分科会

社会保障審議会介護給付費分科会は3日、療養病床からの転換の受け皿とする新しい類型の介護報酬を諮問どおりに答申した。通称は「介護療養型老健」。同省によるモデル試算では、介護療養病床と比較して8割程度の水準。必要な医療行為を積み上げて報酬設定しており、懸念されていた医療難民はでないというのが同省の考えだ。しかし、保険者側にとっては転換による財政の削減効果は当面は見込めない数字といえる。来年に迫った保険料改定は難航が予想される。

老健と介護療養型医療施設の最も大きな違いは医療一職の配置だ。医師は老健1人に対し、病院は3人で24時間体制をとっている。「介護療養型老健」でも医師は1人だが、そのギャップを埋めるために、加算を設けたり、医療保険で協力病院からの夜間、緊急時の往診を評価するなどの対応ができるようにする。看護師も24時間体制がとれるようにするほか、介護体制も現行の介護療養病床の4対1が当面維持されることになった。

厚生労働省のモデル試算では介護療養病床の要介護5の利用者1人当たりの報酬額の8割にあたる33万4千円となる。報酬類型上は「介護療養型老健」の名称は使わず、40万以下と超で2種のサービス費が創設され、老健の報酬体系はさらに複雑になった。

しかし、入居者の特性が現行の介護療養病床に近いことが算定の要件になる。具体的には、過去1年間の入所者のうち病院からの入所が家庭からの35%程度で、医療行為が必要な人が一定以上いること。医療行為の要件のうち、認知症自立度Mランクの入居者の割合は当初示されていた25%から最終的に20%に引き下げられた。こうした要件が満たせなくなった場合は、通常の老健の施設サービス費を算定することになる。

介護療養病床が廃止になる2011年度末までに転換した病院だけを算定対象とすると期限も設けた。

新たに設けられるターミナルケア加算（1日240単位）は、施設内又は自宅で死亡した場合が対象で、病院での死亡を除くのが特徴だ。介護職員の4対1体制を維持するための療養体制維持加算は、介護療養病床として4対1体制をとっていたことを要件とする。新報酬の適用は5月1日からの見込み。

「これで医療介護難民が出ないのか」との質問に厚生労働省は「必要な医療行為を積み上げた」と説明した。しかし、報酬が2割減にとどまったことで、当面、財政削減効果は期待できない。従来からの施設の見込み数の枠を超えて医療療養病床からの転換を介護保険で無条件に受け入れることにもなっており、介護財政面からみた課題はさらに大きくなりそうだ。

介護保険法改正案を閣議決定

政府は4日、訪問介護大手コムスンの不正問題を受けて、事業者指導を強化する内容を盛り込んだ介護保険法の改正案を閣議決定した。組織的な不正が疑われる場合は、国、都道府県、市町村が事業者の本部に立ち入り調査をし、是正勧告・命令ができるようにするなど。事業所の廃止届の提出も事前届出制に改める。連座制については、事業所の取り消しに組織的な関与があったかを考慮した上で、指定権者が適用を判断できる仕組みにし、運用を緩和する。

施設サービス費の比較
※多床室、介護療養型は介護4対1で比較

	介護療養型老健	（従来型老健）	（介護療養）
要介護1	782単位	781単位	722単位
要介護2	865単位	830単位	831単位
要介護3	939単位	883単位	991単位
要介護4	993単位	937単位	1147単位
要介護5	1046単位	990単位	1189単位

【介護療養型老健の加算】
・ターミナルケア加算　1日240単位
・指導管理料（感染対策　1日5単位　褥瘡対策1日5単位
初期入所診療　1回250単位　重度療養管理　1日120単位など）
・療養体制維持加算（介護4：1）　1日27単位

【要件】
・2006年7月1日から2012年3月31日までの間に転換した施設
・医療機関からの入所が家庭からの入所を35%以上を標準とするさらに、
・経管栄養、かっ痰吸引が入所者の15%以上、又は認知症日常生活自立度ランクMが20%以上

ウェルフェア2008併催企画
「介護・福祉の就職・転職説明会」
参加者募集開始
初の開催　6月7日

第11回国際福祉健康産業展「ウェルフェア2008」（主催・名古屋国際見本市委員会、広報協力・シルバー新報）併催企画の「介護・福祉の就職・転職説明会」の参加募集を開始する。期日は6月7日（土）。会場はポートメッセなごや（名古屋市国際展示場）。

企業・団体ごとにブースを設け、来場者と個別に面談しながら採用に関する情報提供を行う。

参加料は1小間（2m四方）税込7万3500円（社名板・机・いす6脚込み）。ウェルフェア2008出展者割引あり。

問い合わせは、名古屋国際見本市委員会事務局（052・7345・4831）、または本紙東京本社（03・3359・5371）。

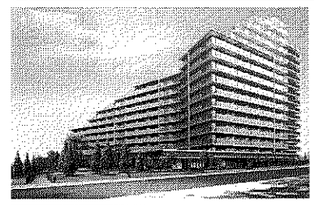
遊歩道

80代の女性Yさんが入院先の病院で、お年寄りには多量の睡眠薬を投与され「トイレに行きたい」と繰り返し訴えたところ、看護師にミトン手袋をつけられベッドに縛られた事件をめぐって、一昨年の秋から名古屋高裁で裁判が行われている。身体拘束された本人が病院を訴えるのは初めての例だが、必要な対応だったとして一審は原告側が敗訴した▽2月下旬、控訴審で原告側証人として法廷に立ったのは全国に先駆け抑制廃止を宣言し、実践してきた上川病院の吉岡充理事長。縛られることの屈辱、オムツをさせられた悔しさをとくとくとYさんに代わって答えるかのようだった▽被告側の弁護士はYさんへの対応の一部分だけを取り上げて一般論として是か否か答えるよう迫ってきた。しかし吉岡氏は、患者の訴えに耳を傾けようとせず、「自分でトイレに行きたい」という希望を慮ろうとしなかった看護師の姿勢をはじめ、薬の荒っぽい使い方やカルテの書き込みの少なさ、ずさんな排せつケアなどの根っこには共通した問題があり、拘束は起こるべくして起こったと訴えた▽控訴審では原告側に有利な風向きに変わってきているという。判決は夏の予定。

大和システム・近鉄不動産
泉北に高齢者住宅分譲
関西最大級

大和システム（大阪市上島貿志社長）、近鉄不動産（大阪市、谷口宗男社長）は、泉北ニュータウンに高齢者向け分譲マンション「マスターズステージ泉ヶ丘」の販売を開始した。関西圏では利用権方式の有料老人ホームに代わり、近年、分譲タイプが増えているが総戸数270戸は関西最大級という。また、生活支援や介護・医療サービスはオレンジコープ（泉南生活協同組合）と提携する。

「泉ヶ丘」は鉄筋コンクリート造地上15階建てで、総戸数は270戸。販売価格は1K（約40平方m）2千万円台から。住戸内は段差がなく、すべて引き戸を採用するなどユニバーサルデザインに配慮。緊急通報ボタンには夜間でもスタッフが対応する。共用設備としては、レストラン、大浴場のほか、居宅介護支援事業所、診療所を設置する。



介護・生活支援事業は併市など4エリアで介護付き住宅（特定施設）の運営実績もあるオレンジコープが提供。必要な場合は、生協のヘルパー事業所からの訪問介護や、有償ボランティアによる助け合いサービスを利用できる。診療所からは住戸への往診も行う。入居が始まるのは来年3月下旬の予定。

基本サービス費、修繕積立金も含めた管理費は4～5万円程度。住宅型有料老人ホーム並の安心感に加え、資産として残せるため分譲タイプは最近になって関西で増える傾向にある。

介護事業者向けにHP作成サービス
NDソフト

エヌ・ディーソフトウェア（ウエブビジネス課、千代田区）は1日から、簡単にホームページを作ったり、情報を更新できる介護事業者向けのホームページ支援ASPサービス「イーケアタウン」（http://www.e-caretown.com/）を開始した。「事業所案内」「居室案内」など、200種類を超えるひな形で簡単にデザインでき、介護事業で必要な項目や文例も用意。専門知識がなくても簡単にホームページ作成・更新が可能だ。3月31日までの申し込みにはホームページ用のイラスト集をプレゼントする。

携帯電話向けサイトも自動作成する。更新が簡単なため、コストをかけず最新の情報での運用が可能になるという。利用料は初期費用4万2千円、月額840円。

高専賃事業セミナー
4月18日大阪で開催

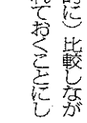
高齢者住宅情報センター

高齢者住宅情報センター大阪は4月18日に大阪市の阪急グランドビル26階会議室で、高齢者専用賃貸住宅事業についてのセミナーを開催する。

高齢者住宅の営業戦略についての松下電工エイジフリー・ケアサービスからのノウハウ紹介と、田村明考タムラプランニング・アンド・オペレーティング社長による高齢者住宅事業を取り巻く制度の現状と経営戦略についての解説など。

午後1時30分～4時30分。参加費は1万円で定員は100名。申し込みは06・6375・8830へ。

だから職員が辞めていく
ダメ職場を選ばないために



岡田耕一郎（おかだ・こういちろう）
東北学院大学経済学部・准教授。経営組織論。日本、スウェーデン、ドイツの介護サービス組織のマネジメントを研究。

岡田浩子（おかだ・ひろこ）
介護福祉士、社会福祉士。共著として07年に『老人ホームをテストする』を喜しの手帖社から出版。

昨年、『老人ホームをテストする』（暮しの手帖社）を出版した。本書は、老人ホームに入居しようとする利用者とその家族が老人ホームを選ぶ際に、どのような老人ホームが良いのかを商品テストするためのものであり、読者の大半が全くの素人であることを念頭に置いて、チェックするポイントを分かりやすく体系的にまとめたものである。見方を変えると、老人ホームの善し悪しを包括的に分析しようという試みなので、就職先としてどのような老人ホームを選んだらよいのか、「職場選び」の教科書としても活用できる。そこで、この連載では、老人ホームを「福祉実践の場」ではなく「労働者の職場」ととらえて、職場選びのチェックポイントについて紹介していくことにしよう。

始めに、福祉分野で働く人たちや福祉を学ぶ学生にしばしば見られる、独特の職業観について、経済学部の学生の職業観と（ステレオタイプ的に）比較しながら少し触れておくことにしよう。

経済学部では民間企業に就職する学生が大半であり、企業を選ぶ際には行きたい業界を絞り込むが、その業界の個々の企業がそれぞれ個性的で、全く違う考え方でビジネスを展開していることを十分に理解している。それを踏まえて、どの企業に自分が合っているのかを検討し企業を選ぶのだが、施設によって待遇は天と地ほど違うので、職場に対する無関心は致命的である。

さらに、気になるのは、経済学部の学生の中には、たとえば介護福祉の業界に行こうと決めたならば、その業界の中の老人ホームは、どこでもそれほど変わりはないと考えて、とりあえず内定をくれたところに就職しようとする者も居る。つまり、老人ホーム間で違いがあることはそれほど意識されておらず、彼らの職業観は「働くこと＝業界を決めること」である。もちろん、実際に働いてみると分かるのだが、施設によって待遇は天と地ほど違うので、職場に対する無関心は致命的である。

さらに、気になるのは、経済学部の学生は「働くこと＝給料をもらうこと」とまずは考えるが、社会福祉学部の学生は福祉に対する自分の情熱が先走ってしまい、「働くこと＝自己実現すること」と位置付けてしまう点である。このように、究極の目標を社会人の最初に設定してしまうと、不眠不休で働き、自己犠牲をいとわない高邁な理想の福祉実践者にならないと引っ込みがつかなくなってしまう。もちろん、その数歩先には燃え尽き症候群という暗くて重い現実が待ちかまえているのだが、あくまでも自己責任であることはいうまでもない。

それ以外にも就職に関しては、いろいろと困った問題が多い。たとえば先駆的な介護を実践して介護の「質」を向上させたとされる現場の人たちを賛美するプロパガンダ本に洗脳され、就職先を選ぼうとする学生がいる。本の行間には「先駆者たち」の薄っぺらい理想と狡猾な偽善が見えかくれするが、見当識がぼんやりとしている若者を介護というバラ色の戦場に誘うには十分だ。あるいは、テレビや新聞や雑誌などに取りあげられた有名な施設であれば、質の高い介護を提供しているはずだと盲信して、就職先を選ぶ真面目な学生がいる。しかし、似たような介護報酬で経営されているので、職員が普通に働くのであれば、似たような介護サービスしか提供できないはずであり、突出した質の高い介護サービスは明らかに「うま過ぎる話」である。ということは、「普通に働く」わけではないことになる。哀れ、紅顔の若者はタベには白骨となり戦場の露と消えてしまう。

果たして、4年間ぼーっと大学生活を送って老人ホームの実態に目を向けなかった学生側が自業自得なのか、とりあえず就職させればお役ご免と考える大学側に問題があるのか、はたまた施設側がしたたかに職員を使い捨てていく傲慢さがやり過ぎなのか、バラ色の介護の理想を捏造する出版社が商売熱心過ぎるのか、おそらくはこの事件にかかわる全ての当事者の一無責任」のなせる絶妙の技なのだろう。

関話休題、これらの問題界を真面目に真綿で首を絞めていることには変わりはない。もちろん、営利に走り。

有名施設がいい職場とは限らない
選び方で「天地」の差が

とする若者もいる。つまり、しまう点である。このようやりとしている若者を介護学生がいる。しかし、似たような介護サービスは在であり→サービス残業などどこ吹く風、有給休暇を取りたいなど甘いあまい、休日出勤もお手の物、全身全霊をかけて福祉に邁進せよと叱咤激励→そんな人たちが集まれば、施設はもはや女工哀史、普通の人では勤まらない→凡庸な労働者は疎外され、理想を追いかける若者は燃え尽き、後には暑苦しく理想の介護を語る不屈の鉄人だけが残されることになる。つまり、介護現場から人が消えてしまうのだ。

さて年が変わり、春になれば、また理想を追いかける若者は、理想の老人ホームにどっと押し寄せるのかもしれない。しかし、理想を掲げてがんばる人たちが若い介護職員の人生を搾取し、結果として、介護の業界を真面目に真綿で首を絞めていることには変わりはない。もちろん、営利に走る老人ホームは、似たような介護報酬で経営されているので、職員が普通に働くのであれば、似たような介護サービスしか提供できないはずであり、突出した質の高い介護サービスは明らかに「うま過ぎる話」である。ということは、「普通に働く」わけではないことになる。哀れ、紅顔の若者はタベには白骨となり戦場の露と消えてしまう。

果たして、4年間ぼーっと大学生活を送って老人ホームの実態に目を向けなかった学生側が自業自得なのか、とりあえず就職させればお役ご免と考える大学側に問題があるのか、はたまた施設側がしたたかに職員を使い捨てていく傲慢さがやり過ぎなのか、バラ色の介護の理想を捏造する出版社が商売熱心過ぎるのか、おそらくはこの事件にかかわる全ての当事者の一無責任」のなせる絶妙の技なのだろう。

関話休題、これらの問題界を真面目に真綿で首を絞めていることには変わりはない。もちろん、営利に走り。

トラベルヘルパーと行く旅 ②

月1回勉強会を開き研鑽している

「あんなに嬉しそうな笑顔を見たのは久しぶりでした」

無事に旅から戻った家族のひとことが、介護旅行を支えるトラベルヘルパーたちには何よりの励みとなる。

介護旅行に同行して旅するトラベルヘルパーが表舞台に立つ役者なら、出発前の旅行相談を受け、予約手配を担当して客を送り出すトラベルヘルパーは影の立役者といえる。

トラベルヘルパーは、その名の通り、旅先でケアサービスを提供するのが主であるが、前回述べたように、高齢者自らが旅をつくるのを手伝うということもできる。さらに、本人や家族の希望に沿った旅をつくるという、地味だが、大変重要な役割がある。

なぜなら、この縁の下で支える力持ちの存在なくして、安全、安心な旅は成立しないからだ。

旅行計画はライフプラン

旅はハレの存在である。客が「快適さ」や「楽しさ」を感じていなければ、質の良いサービスが提供できていないことになる。毎月1回開かれるNPOの勉強会では、このあたりに重点をおいて意見を交わしている。

さて、縁の下の力持ちにとって最も大きな喜びがお客様から頂く「ありがとう、楽しかった、また行きたい」という三つの言葉だ。

ところが、そう簡単にこのご褒美はもらえないのが現実である。

一般旅行の手配と比べて、介護旅行の仕事を続けるトラベルヘルパーがいるのは、苦労以上に大きな喜びがあるからだろう。

仕事にはその人が大切にしているもの、感受性のようなものが現れる。社会保障として介護計画をたてるのがケアプランなら、自分仕様の旅を計画するのは、その人らしさを大事にするライフプランに近い。感受性がものをいう情緒サービスであるところに、裏方に徹するプロとしての誇りがある。（NPO法人日本トラベルヘルパー協会・篠塚恭一理事長）

「天気は大丈夫か、今朝はうまくいっているか」と担当者の心配は尽きない。

しかし、10倍手間がかかっても、10倍の手数料をもらえるわけではないから、常に採算があうかと頭を痛めている。しかも手間がかかった仕事に限って、土壇場で取り消しになったりするからさらに落胆は大きい。お客様が喜んでくれるなら、仕事の苦労は厭わないという担当は少なくないが、一所懸命やった仕事が電話1本であっけなく取り消されてしまうことのショックは隠せない。

トラベルヘルパーは、ボランタリー精神を大切にしているが、ボランティアではない。手間倒れに終わってしまう仕事にプロの誇りは育つはずもなく、いつしか働き甲斐まで失われていく。この仕事がビジネスラインに乗りきれない理由がここにある。

それでも、介護旅行の仕事を続けるトラベルヘルパーがいるのは、苦労以上に大きな喜びがあるからだろう。

仕事にはその人が大切にしているもの、感受性のようなものが現れる。社会保障として介護計画をたてるのがケアプランなら、自分仕様の旅を計画するのは、その人らしさを大事にするライフプランに近い。感受性がものをいう情緒サービスであるところに、裏方に徹するプロとしての誇りがある。（NPO法人日本トラベルヘルパー協会・篠塚恭一理事長）